



受胎率向上大作戦!

～授精時には立ち会いましょう～

獣医師 櫻井 直人

2番草やデントコーンの収穫も終わりましたが、今年は天候不順だったこともあり、飼料の収量や成分にご不満の畜主さんがたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか？

「来年の乳量の落ち込みをどうしようか?」「来年は配合飼料の費用がかさむなあ」という声も検診中に聞かせてきます。そんな時にこそ、思い出していたいただきたいことがあります。それは「繁殖成績」です。

皆さんご存じのように、酪農において繁殖は基本中の基本です。言い換えれば、繁殖が上手くいけば経営は自然と好転していきます。

『繁殖はもつともお金のからない設備投資』と言われるのも納得できます。

今回は繁殖成績向上を目的に、私が担当している検診農家さんのデータを参考に「受胎率」に着目していきたいと思います。

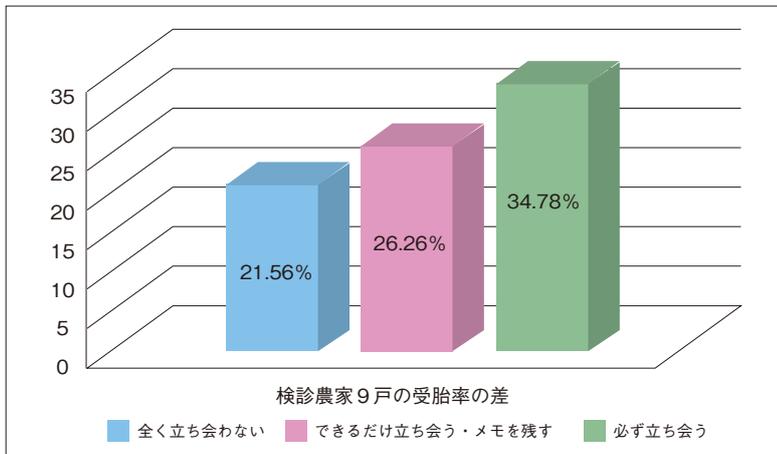
授精時に立ち会いますか?

みなさん思い出してみてください。ここ最近の授精の時、授精師さ

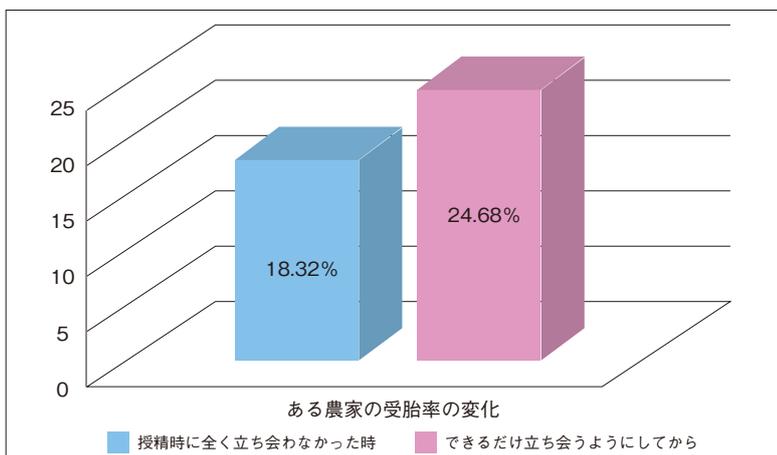
んとお話ししましたか?授精時に立ち会いましたか?

私が繁殖検診している農家(9戸)では、ほとんどの場合、授精時は立ち会っています。しかし中には授精時に立ち会わない畜主さんもいます。そこで気付いたことがあるのです。

授精時に立ち会わない農家さんは受胎率、悪いよなあ...



グラフ① 検診農家の受胎率の差



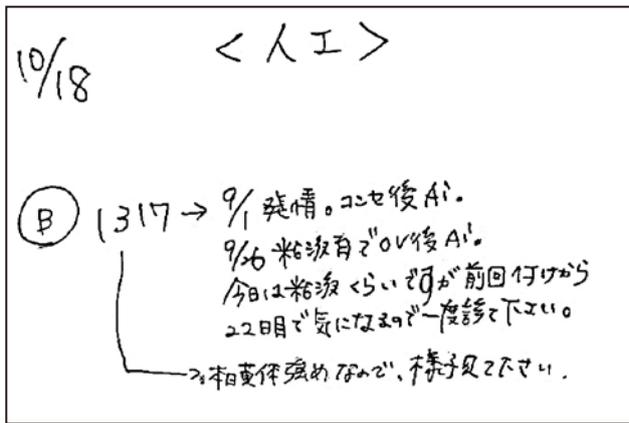
グラフ② ある農家の受胎率の変化

①のようになりました。これは2016年1月から10月まで、私の担当する検診農家さんの受胎率の違いを表したグラフです。

畜主さんが授精時に「必ず立ち会う」場合では受胎率が34・78%であるのに対し、立ち会わない農家さんの受胎率は21・56%とその差13%以上もあったのです。牛群構成も、飼

養形態も、授精状況も異なりますので一概に比較はできませんが、明らかに授精時に必ず立ち会う農家さんの方が受胎率は良いことがわかります。

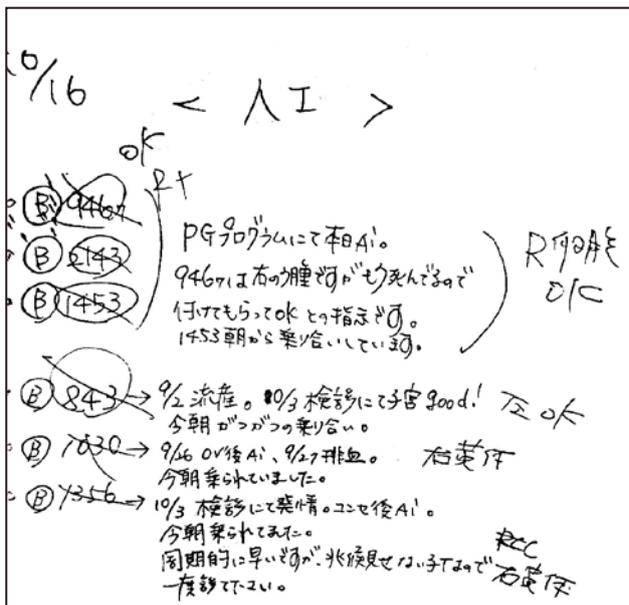
さらに同じ牧場で比較してみるとにしました。グラフ②は、私が検診を5年以上担当している農家さんの受胎率です。検診当初は全く繁殖に興味がなく、授精時も立ち会わないし、発情状況を示したメモすらしない状況でした。



① 授精師に向けてのメモ、状況がよくわかります

しかし、繁殖や牛の管理に非常に熱心な家族が1年半前に増え、状況は一変しました。授精時に全く立ち会わなかった時期の平均受胎率が18・32%であったのに対し、授精時に立ち会ったり、立ち会えないときはメモ（左の例）などで発情の状況を残すことにしてからは24・68%と明らかに好転しました。

みなさんは、なぜこのような結果になったと思われるでしょうか？



② 牛のことをよく観察していることがうかがえます

受胎率向上の足がかり

診療時はもちろん、授精時でも牛の状況（症状）と同程度以上に畜主さんからの情報は必要です。

その牛が外見も発現するような「いい発情」だったのか？それとも周期だから授精師に診てもらおう「それなりの発情」だったのか？

また、是非受胎させたい「攻めの授精」を望むのか？とりあえず発情「だから授精する」とりあえずの授精「なのか？さらには

牛舎では知らない人間に追いかけられ、捕まえられ、直腸検査される…。牛にかかるストレスは計り知れないと思います。

畜主さんが一緒にいてくだされば、そのようなストレスも幾分軽減されると思います。ただ授精時や診療時に立ち会っていただいで、状況を伝える。立ち会えない場合でも、状況を記したメモを置くだけで成績は改善します。

ちよつとしたひと手間が、受胎率改善へとつながっていくのです。

繁殖の技術や切り札は、シダーシンクやオプシンクに代表されるT A I（定時授精）が現在のトレンドのように言われています。しかし、こんな時代だからこそ原点に返ってみる必要があると思います。

「お金をかけずに、手間をかけて受胎率向上！」

ちよつと、農作業もひと段落する冬に入ってきます。その気になれば今日からでも出来ます。牛の立場に立って、授精師や獣医師とコミュニケーションをとり、経営の安定化につなげてみませんか。